

全視情協 / ないーぶつうしん	2002/12/25
NAIIV 通信	No.29
発行 発行責任者 川越 利信	
特定非営利活動法人	
全国視覚障害者情報提供施設協会(全視情協)	
事務局 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2 日本ライトハウス盲人情報文化センター内 Tel.06-6441-0015 Fax.06-6441-0039 E-mail:naiiv@kurumi.sakura.ne.jp	

————— 主 な 内 容 —————

【特 集】第28回全国視覚障害者情報提供施設大会(広島大会)

平成14年度 通常総会 報 告	3
分科会1 デジタル化について	4
分科会2 「点訳のてびき第3版」などの活用について	9
分科会3 「これからの視覚障害者情報提供施設のあり方」シリーズ3	10
全体会1 講演「障害保健福祉行政の現状と課題」	13
全体会2 「ないーぶネット」の安定的運営	14
全体会3 視覚障害者情報提供施設と著作権	18
全体会4 ないーぶフォーラム	19
決 議	4
大会決議を要望	5
平成15年度役員決まる	8
「アジア太平洋障害者の10年」国際会議に梅田ひろみ氏が参加	12
会員施設の住所が変わりました!!	13
加盟施設へお知らせとお願い	13
ないーぶネット改造プロジェクト	16
日盲社協点字出版部会との話し合い	22
音訳指導技術講習会、好評を得て終了	23
点字指導員資格認定の合格者は46名	23
ないーぶネット個人会員へ協力金のお願い	24

全視情協広島大会開催

去る10月9日(水)~11日(金)、ホテルグランヴィア広島で開催された第28回全国視覚障害者情報提供施設大会(平成14年度全視情協広島大会)は、73施設・団体、220名の参加を得て無事終了した。恒例の機器展示会には14業者が出展し、関係者270名が来場した。

9日13時30分から始まった大会式典では、黙禱のあと、本会理事長の川越利信、日本盲人社会福祉施設協議会(日盲社協)理事長代理として日盲社協常務理事の高橋実氏のあいさつ、主管施設の広島県立点字図書館館長・前川昭夫氏の歓迎の言葉が述べられた。

また、平成13年4月から「ないーぶネット」がインターネット化され、図書管理システムとしての「Nリンク」も整備されたことにより、これらの構築にご協力いただいた、日本アイ・ピー・エム(株)、サン・データ・センター(株)、テクノツール(株)の各社に感謝状が贈られた。その他、日本点字図書館理事長の田中徹二氏には、本会役員としての長年の功績に対し表彰状が贈られた。

続いて、前日の総会で承認された大会決議が、日本点字図書館館長の岩上義則氏により朗読された。(決議文は4ページに掲載)

このあと来賓の方々から祝辞をいただき、祝電も披露されて式典は終了した。

法人化2年目の今大会は、施設長・職員としての研鑽だけではなかった。われわれの共有財産である「ないーぶネット」を今後さらに発展させていくためには、これまで以上に安定的な運営が不可欠である。そのためには何ができるか、どうしなければならないか、皆で知恵を出し合う場でもあった。

さらに今回は、新しい試みとして、各施設の日々の業務や一職員の思いを語る「ないーぶフォーラム2002」や、夜の一時をフリートーキングとして本音で語り合う場が設けられた。視覚障害者のニーズがますます多様化している昨今、この大会に参加された方々は、利用者の願いに少しでもかなう施設作りのヒントを持ち帰ることができただろうか。

以下に、全体会・分科会等の概略を報告する。

なお、大会に先立って9日午前中に開かれた平成14年度通常総会では、14年度の事業経過報告が行われ、また、15年度役員人事・事業計画等が審議された。

この中で、本会の大きな事業である「ないーぶネット」の安定的運営のために、「ないーぶネット」負担金の徴収が可決された。

平成14年度通常総会 報 告

日時：平成14年10月9日(水) 10:00～12:00

場所：ホテルグランヴィア広島

《総会成立の確認》

出席77施設(当日出席49, 委任状提出28)。

加盟93施設中、3分の2以上の出席を得て、総会は成立したことを確認。

理事長あいさつの後、議長・議事録署名人を選出して議事に入った。

日本盲人社会福祉施設協議会 常務理事 高橋 実 氏が同席された。

第1号議案 平成14年度事業中間報告

藤野事務局長より、平成14年度事業経過報告が行われ、拍手で承認された。

第2号議案 平成15年度役員人事について

「平成15年度・16年度役員候補者名簿(案)」が了承された。

理事長1名・副理事長2名の選出については、後日、新理事で互選することが確認された。

第3号議案 平成15年度事業計画、予算について

(1) 事業計画について

15年度はNPO法人としての組織を確立し、財政基盤確保、事務局体制の強化をはかる。また、「ないーぶネット」の安定的運営に努める。

「平成15年度事業計画(案)」が承認された。

総会・大会の開催は以下のとおりである。(予定)

臨時総会	平成15年6月13日(金)	東京都
通常総会	10月15日(水)	青森市
全視情協大会	10月15日(水)～17日(金)	青森市

(2) 予算について

「平成15年度予算(案)」が承認された。

なお、15年度から「ないーぶネット」負担金(年額6万円)を徴収する。対象は、全視情協加盟施設のうち、「ないーぶネット」を利用している施設・団体である。

第4号議案 大会決議について

4項目の大会決議が承認された。

分科会 1 デジタル化について

10月10日(木) 9:00~12:00

担当：録音委員会

司会進行：姉崎久志（神奈川県ライトセンター）

1. DAISYハードウェア・レコーダーと編集ソフトによる図書製作について

（講師：シナノケンシ株式会社 西澤 達夫氏、他1名）

DAISYハードウェア・レコーダーPTR1については、8月末から発売し、現時点で数百名が購入している。

PTR1の主な特徴

- ・MP3圧縮で保存
- ・録音中に上書き保存
- ・特定の単語検索と修正
- ・レベル、ページ番号等デイジー編集が一通りできる

主な機能

- ・音声ガイダンスがついている
- ・PCカードスロット装着可能 パソコンとのデータのやり取りが簡単
データの保存にもたいへん便利
- ・USBで直接パソコンに接続可能でCDR-Wとしても活用
- ・しおり機能 自分の声でしおり機能が活用できる（視覚障害者）
- ・メモ録画 本体メモリーに可能（しおり、メモ30分）

決 議

- 「ないーぶネット」の充実強化を図るため、積極的な支援の拡大を要望する。
- デジタル録音図書読書機の日常生活用具指定を要望する。
- 盲人用郵便物の無料扱いを存続し、法律に明文化するよう要望する。
- 視覚障害に関する文化を保存するため、資料館（仮称）の設置を要望する。

以上決議する。

平成14年10月9日

第28回全国視覚障害者情報提供施設大会

主な仕様

- ・ CD吸い込み式等
- ・ PCカードでの保存を推奨
- ・ マイクはミニジャック コンデンサーマイク推奨

PTR1 編集ソフト

- ・ シグツナ2.017 が使えれば編集可能
- ・ シグツナで編集したソフトも編集可能（音声インポート機能）
- ・ 編集が済んだものをそのまま保存

PTR1での録音編集実演

- ・ PTR1のガイダンス設定実演
- ・ PTR1での録音設定の説明と実演
- ・ 録音音質と時間 取り扱い説明に記載
- ・ 録音の実演
 - 録音音量ガイダンスが指示 良いが8割 大きいと2割でOK

上書き録音の実演

録音中に再生設定を使用して確認できる

パンチイン録音実演（はめ込み録音）

録音しながらの見出し、ページ等の実演

- ・ 再生の設定と説明と実演

PTR1での編集

- ・ ガイダンスでのPTR1機能の説明
- ・ 録音後の再生で編集も可能
- ・ 録音図書製作して校正者へ渡すためのバックアップ説明と実演
 - バックアップ
 - CDファイナライズ（ビルドブックと同じ）

大会決議を要望

先の広島大会で決議した4項目の実現をめざして、11月26日(火)午後、10名の理事が厚生労働省を訪れ、社会参加推進室・片石室長ほか3名に陳情を行いました。

決議第2項の「デジタル録音図書読書機の日常生活用具指定」については、「15年度はスピーチオを指定することで予算要求をしている。デジタル録音図書読書機については、16年度に向けて検討する。」との回答がありました。

なお、日常生活用具については、新しい機器の指定だけでなく、役割を終えたと思われる機器の指定を廃止することによって、15年度は視覚障害関係機器では、上皿秤と盲人用タイムスイッチの2品が指定廃止となる予定です。

デジター編集レコーディングソフト説明と実演

- ・録音時に操作（パンチイン等）の個所は残っている？
- ・シグツナ操作とほとんど変わらない

製作中の図書にインポート説明実演

デジター図書製作説明実演（CDへの書き込み）

PTR 1で録音した場合、音声エクスポートをすることで未使用音声ファイル等を整理することができる。

マイスタジオPCとレコーディングソフトの違い

- ・音声フォーマットの違いがあるだけ　マイスタジオPCは42Kまで
- ・マイスタジオPCは非営利、PTR 1レコーディングソフトは営利可能
- ・レコーディングソフト販売について伺いたい（9,800円もしくは29,800円ではいかがか？）

各国のデジター化の取り組み

- ・貸出は日本が最初（1995年導入）
- ・スウェーデン　2004年末までに全てデジターに切り替える
- ・イギリス　2005年5月　切り替え
- ・アメリカ　デジター図書貸出開始　教科書
レジャーリビング図書　2008年　貸出開始
- ・オランダ　学生向けにサービス開始決定

2. 日本点字図書館の取り組み

（講師：日本点字図書館　天野 繁隆氏）

（1）「視覚障害者用録音図書ネットワーク配信システム」の開発実証実験報告

今後のデジターはどうなるか。マルチメディア化（リハ協、ひなぎく等）、ネットワーク化（日点等）が進む

点字録音同時配信システムについて、6月28日完成の日点システムで紹介。（実証実験で使用するソフトとは多少異なる）

- ・録音図書だけでなく点字図書も配信可能に
- ・Aというタイトルが製作館ごとに現れる
- ・録音で検索をかけてその場で点字図書の検索もできる
- ・音声合成装置の誤読を、カタカナ読みを見に行くようにして解消

今回の事業の目的

- ・即時的に視覚障害者が必要な資料を取り込めるかというのが趣旨
- ・平成13年春からスタート（日点、日ラ情文、上田点図、シナノケンシ）

参加者（モニター）

- ・平成13年秋、モニター4名（長野）（1次実験）
- ・13年12月から14年3月まで、モニター60名（2次実験）

施設

コンテンツが入っているサーバー

書誌情報が入っているサーバー

日ラ情文・日点はADSL回線、上田点図はケーブルTV回線使用

利用者

ADSLを使用して150Mbyteを確保が多かった。中にはケーブルテレビ有り。

利用者タイプ2大別

- ・日頃パソコンを常時使用している方
- ・あまりパソコンを使用していない方

モニターに2種類のソフトを製作

タイプ1...利用者がソフトを利用して操作する。

タイプ2...あるキーを押すと自動的に検索機能が起動し、音声合成装置で目録検索ができる。

利用者からのアクセス

- ・ID パスワード配布

(2) 点字・録音図書ネットワーク配信システム実演

画面は音声合成装置で案内

ID パスワード

メニューに入る 1~9までの項目

録音図書検索画面 書名 著者名 出版社 全て

検索実演 検索後図書を指定 検索詳細

図書を指定してリンク ネットプレクストークで再生

(操作はプレクストークと同じ)

検索画面(詳細)に戻って点字検索 ダウンロード

ベストテン情報から ダウンロード 実演

評価と課題

アンケート調査(19項目)。データ希望者には配布

検索、ストリーミング等好評であったが、逆に現在の点字図書館のサービスに問題があるように感じた。ソフト、音声合成装置等のバージョンアップ100メガのダウンロードに40分。地域情報、雑誌等もデータとして入れてほしい。

法的な問題の解決が必要。公衆送信権については、点字はOK、音訳はダメ。文芸家協会等との相談が必要。

(3) ネットワークを使った録音図書の製作

ネットワーク配信での「提供」に関してはシステムができたが、ネットワークで「製作」すればもっと早く図書ができるのではないかとの発想で取り組む。

構想の段階ではあるが、現在の問題点である「図書製作が直列的である」という現状を、並列的に図書を製作できないかと考えた。

例えば、サーバーを設置し、図書データも製作段階のデータも全てサーバーに入れる。そうすることで、並列的に作業ができ、速やかな図書製作ができると考える。

(4) 質疑応答

質問等は特になかった。

司会者から、現在のデジター図書編集ソフトについての説明（シグツナ 2.017、マイスタジオPC、PTR1レコーディングソフト、シグツナ3、LPスタジオプラスの違い）

PTR1レコーディングソフトに関して、9,800円と29,800円の違いは、マニュアルやサポートの有無による。

平成15年度役員決まる

11月26日(火)、先の全視情協総会で承認された平成15年度の理事および監事が東京で会合し、理事長・副理事長の選出を行いました。

その結果、下記のように決定しました。

平成15～16年度役員

役職	氏名	所属施設	ブロック
理事長	岩井 和彦	日本ライトハウス盲人情報文化センター(館長)	近畿
副理事長	藤野 克己 岩上 義則	視覚障害者生活情報センターぎふ(館長) 日本点字図書館(館長)	
理事	後藤 市郎	北海点字図書館(館長)	九州
	金津 和栄	ライトハウス・ライブラリー(館長)	
	西田 洋一	熊本県点字図書館(館長)	
	田尻 彰	京都ライトハウス点字図書館(館長)	
	竹島 信也	三重県点字図書館(館長)	中部
	小林 久寿	山梨ライトハウス盲人福祉センター(所長)	関東
	岡本 博美	山口県盲人福祉協会点字図書館(館長)	
	後藤 健市	北海点字図書館(副館長)	東北・北海道
	秋武 和俊	長崎県立点字図書館(館長)	
飯沢 行雄	福島県点字図書館(館長)		
監事	浜崎 孝夫	神戸市立点字図書館(館長)	
	原 文男	徳島県立盲人福祉センター(所長)	

(日盲社協情報サービス部会長には、岩上義則氏が選出された。)

分科会 2 「点訳のてびき第3版」などの活用について

10月10日(木) 9:00~12:00

担当：点訳委員会

司会：水谷吉文(天理教点字文庫)

出席者：35名

「点訳のてびき第3版」発行後初めての大会であるため、まず前半は表記の変更点について確認を行い、後半、それを踏まえての意見交換などを行った。また、BE文書製作基準改訂プロジェクトから同プロジェクトが提案する申し合わせ事項についての説明を受けた。

1 表記変更点の確認について

資料：「点訳のてびき第3版」発行に伴う表記の変更点について

説明：水谷吉文(元「点訳のてびき」改訂特別委員会作業委員)

2 「点訳のてびき第3版」への質問、意見交換について

主に次のような発言があり、それぞれについて回答や意見が交わされた。

(記載は発言順)

複合名詞の用例「スポーツマン」は、外来語の切れ続きに関して、規則にはない解釈(2拍+4拍は続け、2拍+5拍は切る)をされるおそれがあるのではないか。続けて書く理由が、「マン」の自立性の弱さにあるのか「スポーツ」の拍数にあるのか、判断できない。

「和語」や「漢語」というものをどのように説明しているのか聞きたい。

(司会者から「~する」の新しい規則への感想を求められて)規則は分かりやすくして良い。ただ、受講者には受け入れられやすいが、従来の規則に慣れた者には「慣れ」を修正するのがたいへんである。

接頭語の切れ続きが分かりにくい。

「てびき」37頁にいう「1語」は、どのようにして判断すればよいのか。

プライベート・ルーム、ベッド・ルームの midpoint は、どう処理すればよいのか。など。

3 BE文書製作基準改訂プロジェクトからの提案について

『「ないーぶネット」登録文書に誤りを見つけた場合の連絡及び修正に関する申し合わせ』と題する文書の配布と趣旨説明があり、質疑のあと一部修正し、全員の同意を得た。

分科会 3 「これからの視覚障害者情報提供施設のあり方」シリーズ 3

10月10日(木) 9:00~12:00

担当：理事会

司会：岩井和彦（日本ライトハウス盲人情報文化センター 館長）

石原直行（石川県視覚障害者情報文化センター 所長）

助言：厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部

企画課 社会参加推進室 室長補佐 江波戸一敏氏

利用者ニーズへの素早い対応、新しいニーズの掘り起こし等、先駆的に事業展開した施設の事例発表をもとに意見交換した。

<これまでの経過>

第1回 各施設の運営実態（公立・公立民営・民営）、運営の形態が異なる施設間での討議

第2回 地域サービスはどのように？（事例発表）

第3回（今回）支援費制度に着目しながら、現有勢力で何ができるか、制度の利用、について各施設からの提言

1 利用者ニーズへの素早い対応を！

（名古屋盲人情報文化センター 所長 近藤豊彦）

- ・利用者ニーズに素早く対応する。利用者本位。誰のための施設か。無競争時代からの脱却
- ・組織は逆ピラミッド型。文鎮型経営
- ・事業計画は年度ではなく、もっと長い視点で
- ・職員がどのような仕事に意義を見つけて働くかが問題

2 利用者ニーズ重視の施設運営を目指して

（石川県視覚障害者情報文化センター 所長 石原直行）

（1）施設運営における財源確保と利用者ニーズ、事業の拡大・充実

- ・素早い対応ができないことが問題。利用者ニーズについてはアンケートをとっている
- ・県市町村に新しい委託事業を依頼（利用者ニーズに基づいて）
- ・利用者の拡大（中途失明、高齢者等）
- ・委託事業の人員費（講師料等）の引き上げ（自治体への働きかけ）
- ・負担金を支払っても受けないサービスの提供

- ・ガイドヘルパー派遣の条件緩和、規定外への対応
- ・プライベート、レファレンスサービスの多様化。充実する必要あり
- ・外郭の支援組織確立（事業の理解と協力、援助の確保）
- ・知事・市長を囲む会
- ・利用者の苦情については意見箱を設置。インターネットでも受付。職員、施設長、第3者委員に。処理は第3者委員へ提出、協議、解決。

（2）運営面での実施状況

- ・フェスタ。展示。喫茶。県民（県行政関係者）に1日所長をしてもらう（県民の理解）など
- ・生活訓練、歩行訓練、各種の養成講座
- ・職員研修（外部講師による研修。待遇などゲーム感覚で）
- ・月1回の職員会議（研修参加者の発表、見学体験発表）
- ・職員は総数18名（正職員10名、非常勤、嘱託、臨時職員、指導員等）だが、利用者の声に応じられない状況
- ・今後、土曜・日曜開館へ（交代制の休日出勤）

3 障害者ITサポートセンター事業

（滋賀県緊急雇用創出特別対策基金の活用）について

（滋賀県立視覚障害者センター 伊東正樹）

（1）事業概要

- ・県内で5カ所
- ・IT住民サービスセンター（公民館）の一環で配置された（県が実施）
- ・障害者を採用（パソコン、点字サポーター採用）
- ・3年間事業継続

（2）財源

- ・国の県緊急地域雇用創出特別交付金を受け、滋賀県が緊急雇用創出特別基金で活用。
- ・人件費、諸手当、法定福利費、旅費、物品費、役務費で2,982千円
- ・利用が多く、ITサポーターが10月以後2名に増員

（3）この資金を活用した事業

- ・図書管理システムOA化事業
（途中から「ないーぶネット」のデータ作成に変更）
- ・点字録音図書のデータベース作成事業
（「ないーぶネット」運用のための書誌データ整備。14年11月から）

4 サーバー上のデータ共有による録音図書製作とネットワーク配信サービスの統合
(日本点字図書館 館長 岩上義則)

- ・ 職員の削減と合理化がテーマ
- ・ 録音図書製作にあたって、ボランティアがパソコン入力したデータをサーバー上に送り、校正者はそのデータを校正しサーバー上に戻す。製作館は進行状況の把握もできる。1タイトル30週が半分以下になる。点訳図書についても同様である
- ・ プライベートサービスを配信サービスの方に振り向けたい
- ・ 今後の課題として、「ないーぶネット」への取り込みを視野に入れ統合する必要あり。配信システムは完成されたが予算等の目途が立っていない
- ・ 著作権問題

5 ITワークセンターとグッズサロン 新しい事業の取り組み
(日本ライトハウス盲人情報文化センター 竹下 亘)

視覚障害者の日常生活が楽しくなるような便利グッズや用具等200点を展示・販売。これまで、「触れて、見て、感じて」確認できる場がなかった。また、パソコンに関する相談・サポートを行っている。公的資金は受けていない。苦しい経営状況である。

ITワークセンターでは、パソコン講習会の指導員として働いていただく等で月4~5万円の収入を得ることができる。小規模通所授産施設である。

質疑では、著作権について、高齢者・LDなどの情報障害者への対応、ボイスリンク(名古屋)の紹介、点字図書の配信サービスと点字出版所への影響、などが交わされた。最後に厚生労働省の江波戸氏にまとめのお話をいただいた。

「アジア太平洋障害者の10年」国際会議に
梅田ひろみ氏が参加

2002年は、国連のアジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)が定めた「アジア太平洋障害者の10年」の最終年にあたり、日本国内では札幌、大阪そして滋賀で会議が開かれました。

10月25日(金)~28日(月)、滋賀県大津市で開催された「アジア太平洋障害者の10年」最終年ハイレベル政府間会合に、本会から日本点字図書館の梅田ひろみ氏が参加しました。これは、8月の常任理事会で話し合わせ、決定したものです。

また、全視情協は、日本図書館協会等と連名で「障害者の情報アクセス権と著作権問題の解決を求める声明」を公表し、9月の大阪フォーラム、10月の札幌でのDPI世界会議の会場で配布しました。

全体会 1 講演「障害保健福祉行政の現状と課題」

10月9日(水) 14:30~15:30

担当：理事会

講師：厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部

企画課 社会参加推進室 室長補佐 江波戸一敏 氏

国の社会福祉基礎構造改革により、障害者福祉も措置から契約へ転換が図られる。
また、平成14年は障害者対策に関する長期計画の最終年にあたる。

このような現状の中で、われわれ視覚障害者情報提供施設に期待されることなど、
下記の項目でお話いただいた。

- 1 社会福祉基礎構造改革の推進
- 2 新しい長期計画およびプランの策定
- 3 身体障害者補助犬法の施行
- 4 子どもの読書活動の推進に関する法律の施行
- 5 平成15年度概算要求の概要
- 6 視覚障害者情報提供施設の役割

会員施設の住所が変わりました!!

JBS日本福祉放送

新住所：〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-4-33 辰野新大阪第3ビル3F

TEL：06-6306-0294（変更なし） FAX：06-4806-2943（変更なし）

霊友会法友文庫点字図書館

新住所：〒106-0041 東京都港区麻布台1-9-10

TEL：03-5563-2510（変更なし） FAX：03-5563-2541（変更なし）

加盟施設へお知らせとお願い

ボランティアグループに対する相互貸借について

先の広島大会では貸出図書相互貸借についての申し合わせが行われましたが、
点字図書館（施設）間の貸借だけでなく、全視情協加盟のボランティアグループ
に対しても同様の扱いとしていただきますよう、お願いいたします。

「初めての点訳」指導者用マニュアルの発売について

啓発委員会のプロジェクト事業として「初めての点訳」指導者用マニュアルの
作成が進められており、今年度末（15年3月）には完成の予定です。新年度（15
年4月）から、点訳入門講座の講師用テキストなどにご活用ください。価格は
未定ですが、他の書籍同様、（株）大活字で販売予定です。

全体会 2 「ないーぶネット」の安定的運営

10月10日(木) 13:00~15:50

担当：理事会

司会：藤野克己（視覚障害者生活情報センターぎふ 館長）

小林久寿（山梨ライトハウス盲人福祉センター 所長）

進行：1 「ないーぶネット」を活用したサービスの現状について

2 「ないーぶネット」運営のための業務とそれに係る経費について

3 「ないーぶネット」の今後の課題

まず司会者から、「今後の運営に係る費用については前日の全視情協総会で承認され、全視情協加盟施設で「ないーぶネット」を利用している施設・団体は新たに6万円を負担することとが決まった」旨の報告がなされた。

「ないーぶネット」の歴史

「IBMてんやく広場」

パソコンによる点訳（画期的） ネットワーク化（共有）

日盲社協点字図書館部会による「てんやく広場」特別委員会（IBMから点字図書館へ）

利用者への開放（プライバシーの保護）

全視情協への全面移管、インターネット化

1 「ないーぶネット」を活用したサービスの現状について

（1）川崎市盲人図書館（古川 泉）

「ないーぶネット」の利用状況

- ・利用者は高齢者が半数以上
- ・貸出の多くが「ないーぶネット」を利用したもので、今や重要な役割を果たしている。
- ・「ないーぶネット」によって、多くの図書が提供できる。多様化するニーズに対応可能となった。サービスの向上につながっている。

具体的な利用事例

- ・利用者自身が「ないーぶネット」で検索し、メールで依頼してくる。障害者の社会参加にもつながっている。
- ・最新の図書・話題の本については、「ないーぶネット」だけでは無理なので、他サイトを利用して情報を得ている

今後、「ないーぶネット」に希望すること

- ・「視覚障害者が使う」ということを考慮したホームページ作りを。
- ・録音図書のダウンロード、ストリーミングなど。
- ・より効率的な運営を希望する。

(2) 北九州市立図書館 (大庭 彩、田畑美穂)

「ないーぶネット」を使った日常業務

- ・貸出リクエスト増加。電話の増設、パソコンを1人1台に。LAN環境を整備し、誰でもどこからでもリクエストに対応できるようにしている。
- ・パソコンの設定等はボランティアの協力を得た。
- ・「まず検索」を合言葉に、また、忘れないようにパソコン画面上にメッセージを入れるなどの工夫をしている。
- ・お知らせや「QアンドA」のチェック、職員への回覧など。
- ・他業務とのかねあいの中で「日常業務」に乗せることが難しい。

「ないーぶネット」導入前との比較

- ・手書き作業が減った。
- ・貸出履歴の管理ができない。利用者向けにPRし理解を求める。
- ・在庫確認が簡単に早くでき、利用者にも喜ばれている。
- ・送信回数が多く、受信回数は少ない。施設として情報発信が十分にできていないことを意味している。
- ・Nリンク上のデータの正確さが大切ではあるが、データ管理のための作業が多い。

「ないーぶネット」との今後の関わり方

- ・データの充実とタイムリーな情報提供の必要性
- ・職員数も少なく、日常業務に追われ、やはりたいへん。
- ・職員同士の連携も必要

(3) 「ないーぶネット」全体の活用状況 (サービス委員会委員長 小野俊己)

- ・みんなで育てるネットワークとして取り組んできた。
- ・公共図書館やボランティアの意見を吸収する必要がある。
- ・8月に目録研修会を開催した。
- ・Nリンクの改善(バージョンアップ)についても検討している。11月に配布予定。
- ・「ないーぶネット」改造については、今年度予算280万円。目的は、効率よく運営するため。優先順位をつけて着手。
- ・特定の職員だけでなく、全体でカバーできる体制作りが必要。Nリンクについても、ブロック単位で精通した人を出していきたい。

2 「ないーぶネット」運営のための業務とそれに係る経費について

ネットワークの管理業務

1. システム管理 (サーバーの維持管理、Nリンク) 東京事務局
2. 会員管理 大阪事務局
3. データ管理 提供する側(各施設)の責任。AB01についてはサービス委員会がチェック。

(1) 大阪事務局

会員管理

入会 (個人・団体) (ID発行、入会審査 (点訳委員会) 等)

会員区分変更、退会

会員データは専用パソコンで処理 (日本ライトハウスでシステム作成)

問い合わせ

システム不具合の連絡調整

会員管理プログラムの修正

ホームページの維持・更新 (naiivnet.gr.jp)

(2) 東京事務局

Nリンク関連

操作に関する質問、トラブル対応

マニュアルの保守

パイロット館 (神戸、愛媛、千葉)、業者 (サン・データ・センター) との連携・連絡
テレフォニー関連

入会

操作・トラブル対応

マニュアル

業者 (IBM・テクノツール) との連絡

その他

TRCデータを業者 (テクノツール) へ送信

研修会への協力

AB01データの受け渡し

「ないーぶネット」改造プロジェクト

メンバー：吉弘 裕子 (鹿児島県視聴覚障害者情報センター)

蕪木 克行 (日本点字図書館)

渡辺 寿一 (日本ライトハウス盲人情報文化センター)

小野 俊己 (日本点字図書館)

(この他に日本アイ・ビー・エム (株) の担当者が加わり、専門的アドバイスをいただく。)

目的：開発当初の取り残し部分とその後の運用中に発生した問題点等 (40項目余) の改善 (所蔵登録、個人ダウンロード画面、ハードの増強、等)

サービス委員会のプロジェクトとして設置された。現在、「ないーぶネット改造基本資料」としての冊子をまとめ、加盟施設に配布。これまでの推移や現状のシステム、今後の検討すべき課題などが記載されている。

3 全体協議

これまでの報告等で認識を深め、また、総会では「ないーぶネット」負担金の徴収が可決されたこと、「ないーぶネット」改造プロジェクトが発足したことをふまえて、今後の「ないーぶネット」のあり方、課題等について話し合った。

司会（藤野）：負担金については、「ネットワークをつぶさないために」ということで了承されたが、今後さらにどうするのかという問題は残っている。

近藤（名古屋）：2000人程度でアクセス数がオーバーするのか。当初の設計、今後のシミュレーションは？

小野（日点）：BEデータファイル量は当初56%、現在66%。あと3年でオーバーする。ハードの寿命も5～6年、あと2～3年である。アクセス数の増加からCPUの増強も必要。将来予測については、音声データ配信やデジタル図書館など、別の視点から考え直す必要がある。当初の設計については今、資料もないので、後日みなさんに回答する。

樋口（神奈川）：近藤氏のご意見はもっともだと思う。きちんと説明しないから不信感がつる。

田中（日点）：AB01のデータは17～18万件。サーバーの中でCPUを圧迫している。これではずせば余裕が出る。当初のシステム構築は直居氏を委員長に全視情協から選出された委員のたいへんな努力によるもの。将来の予想は立てにくいものだ。

熊谷（静岡）：提案を二つ。一つは、水曜日のメンテナンスを夜または日曜日にしてほしい。2点目は、書誌データの墨字情報にルビがほしいということ。

小田垣（青森）：ダウンロードしたものを解凍した時のファイル名に書名が入るようにできないか。

（吉弘氏より、「タイトルフォルダの中のテキストファイルを利用してほしい」との回答）

萩原（兵庫）：利用者は書名・著者名で事足りる。ISBNからリンクすれば詳細はわかる。もっとコンパクト化できるのでは？

川越（理事長）：「ないーぶネット」に関しての意思決定権・財産権があいまい。全視情協のネットワークであるのに、予算は日点についたあたりが原因と考える。そこで2点の提案をしたい。まず、責任の所在を明確にするためにも、厚生労働省・全視情協・日本点字図書館・日本ライトハウスの4者で文書を交わしてはどうか。もう1点は、業者選択について。大きな業者はコストも高い。小規模の業者を検討する必要もあるのではないか。5～6年先までの見通しも必要。

田中（日点）：委託先を大手にするのは当たり前で、小業者では不安定。運営についても日点・日ラ・全視情協の3者でうまくいっているのだから現状のままでいい。

司会（藤野）：時間も迫ってきた。今後の意見はサービス委員会へ。また夜のフリートークでも話し合いたい。

全体会 3 視覚障害者情報提供施設と著作権

10月10日(木) 16:00~17:30

担当：サービス委員会

司会：川崎 弘(千葉点字図書館)

小野俊己(日本点字図書館)

講師：筑波大学 山本順一氏

日本点字図書館 梅田ひろみ氏

私たち点字図書館(視覚障害者情報提供施設)の職員は、これまで日常業務の中で著作権についてあまり考えなくてすんだ。ただ、最近増えてきた地域活動を行うボランティアの方々や公共図書館からの著作権に関する問い合わせには的確に答えていく責務がある。また、著作権除外施設とはいいいながらも、音声データ配信など今後のサービス展開において、公衆送信権などの知識を持つとともに、よりよいサービス提供のためにそれらの改正にも意見を述べる必要があるのではないか。

昨年、著作権法が改正されたのを機に、これまでの反省も含め、著作権について学習する機会を持ちたいと考え、7月の「ないぶネット研修会」では著作権セミナーを開催した。国会図書館の南亮一氏には、「著作権とは何か 視覚障害者に情報を提供するために」というテーマで広く著作権とはどういうものかをお話いただき、河村宏氏には「情報アクセシビリティの国際的動向 DAISYの製作と利用を取り巻く状況」というテーマで最新の国際動向や音声配信についての文化庁などの見解にもふれていただいた。最後に、LD親の会の井上芳郎氏には「学

習障害者の情報保障について」というテーマで学習障害者へのサービスの必要性という、私たちにとっては今後のサービスを考える上で非常に貴重な提言をいただいた。

今回はこのセミナーを一步進め、著作権が私たちの仕事にどのように関係しているのか、具体例を含めた全体的なお話を、筑波大学の山本順一先生にお願いした。また、日本図書館協会の障害者サービス委員である日本点字図書館の梅田ひろみさんには、最近の動向についてお話をしていただいた。

今後、セミナーやこの全体会の内容を踏まえて、マニュアル的なものが作成できればと考えている。

全体会終了後、夕食をはさんで、山本先生を囲んだ自主学習会を開催、約20名が参加した。

なお、今回の山本先生ならびに梅田さんの全体会報告原稿は下記に掲載されています。

<http://www.naiiv.net/kiroku/20021008/hirosima.htm>

全体会 4 ないーぶフォーラム

10月11日(金) 9:00~11:30

担当：理事会

ないーぶフォーラム2002

座長：三重県点字図書館長 竹島信也

「ないーぶフォーラム2002」は今回初めて企画された。視覚障害者情報提供施設としての新しい取り組みや日常業務での工夫などについて、5つの施設から発表された。

1. 障害者ITサポートセンター事業について

- 滋賀県緊急雇用創出特別対策基金の活用 -

(滋賀県立視覚障害者センター 伊東正樹)

視覚障害者IT講習会を開催するほか、パソコンについての相談助言ならびに訪問指導を行っている。

事業は、1日4時間で5日間、計20時間開催。パソコン6台を図書館閲覧室に並べ、講師は視覚障害者1名とアシスタントで、パソコンに興味を持つ初心者を対象に行った。講習会修了者のサポートには緊急雇用創出特別対策基金を活用した。

2. Needs To Needs - みんなの想いをいかして -

(名古屋盲人情報文化センター 小川俊樹)

図書館蔵書戦略として次の5つを樹立した。

個人製作時間の短縮(スピード化)

製作段階の流れの改善とボランティアのフォローアップ。

製作グループの連携

点訳・音訳作業を同時に実施することで製作者、利用者の選択の幅を広げる。

地域ボランティアの受け入れ体制づくり

訳者の力量の評価が重要であり、製作基準を明確にするなどが必要

地域ボランティア製作図書蔵書の受け入れ

完成図書のレベルチェックが必要。

Needs To Needs

Needs To Needsとは、ネット上での「展開・頼みこみ・書き込み」。新刊図書紹介をネット上に公開し、利用者がこの情報により是非とも訳してほしいものを書き込む。訳者はこのニーズをもとに図書の製作に当たる。これは、訳者の得意部分を選ぶことで、訳者のニーズとも合致する。図書の完成時期や、

図書製作進行状況等についても利用者に知らせる。ボランティアは求められている図書を製作するが、作りたいものを製作することで、製作意欲が生ずる。

原本図書の購入費の節減のため、一般図書館から図書の借り入れをするほか、家庭でいらなくなった図書の寄贈を求めていく。

製作側、利用側、図書館の3者にとって、そのニーズが合致する。

3. 普及啓発事業「視覚障害者理解への取り組み」

(神奈川県ライトセンター 姉崎久志)

普及啓発事業のメニュー

福祉教室、一日移動ライトセンター、施設見学、施設公開、点字教室など教育現場との関わり

総合的学習との関わりは視覚障害者理解の絶好の機会である。教職員の研修は、学校を通じて児童生徒への指導に繋がり、その家族に広がっていくという無限の可能性を持っている。

視覚障害者理解への取り組みは、情報提供施設の社会化と、視覚障害者の社会参加に結びつく。

4. 中途視覚障害者の点字指導について

(福岡市立点字図書館 小林貞良)

今回の研究のポイント

点字触読時の指の動かし方。横に動かすスライド読みからタテ読みを導入。

ラージ点字の使用。大きな点字の方が楽な人には大きな点字を使用し、点字を使用する喜びとその恩恵を受けるよう、施設としてもその役割を果たすべきである。

5. 「Lサイズ点字」について

(視覚障害者生活情報センターぎふ 藤野克己)

中途失明の若い青年との出会いと点字を習いたいとの意欲に心を動かされたことが「Lサイズ点字」についての動機になった。

日本の点字の基準は、B5判、1行32マス・1ページ18行が標準規格といわれ、小さくマス間が狭いことから習得できない人がいる。現在、「ないーぶネット」に登録されているデータを使って、B5判のスタイルをA4サイズにして印刷できるか研究を行った。用紙A4判、点字規格は欧米標準サイズ、1行32マス・1ページ18行、インターラインで両面書き、グラフィック機能を付けることを基本として、開発を企業(ジェイ・ティー・アール)に要請している。Lサイズ点字を使用した岐阜県広報誌の製作を始め、41名が利用しており、中途失明者だけでなく高齢化した点字利用者からも好評を得ている。点字の規格を変えることで点字読者の増加と視覚障害者の唯一の文字利用を促していきたい。

平成14年度前期活動報告（平成14年4月～9月）

座長：日本点字図書館館長 岩上義則

【本部事業報告】（川越理事長）

1. 臨時総会を平成14年6月13日徳島市で開催
2. 理事会を平成14年6月11日徳島市で開催
3. 常任理事会を平成14年5月22日及び8月8日の2回開催
4. その他
 - (1) 郵便法改正に関し、5月9日、総務大臣宛「盲人用点字郵便物を含む福祉目的の第4種郵便物の料金割引制度存続について」要請。
6月19日、第4種郵便物の無料化を明文化するよう衆議院・参議院総務委員に陳情。
 - (2) 全視情協富山大会決議事項について厚生労働省に要望。
 - (3) 「ないーぶFAX」の発行。
 - (4) 理事の交代および日盲社協理事（情報サービス部会長）に本会岩井副理事長が就任。

【委員会報告】

1. サービス委員会（委員長 小野俊己）
 - (1) ネットワークの本格稼働によって、貸出事例が増加している。これを円滑に実施するため、「相互貸借申し合わせ事項」の改正について承認された。
 - (2) 7月に「ないーぶネット」研修会を開催し、著作権に関する学習および「バリアフリーの図書館サービスをめざして」と題して学習。8月には目録研修会を開催。目録の基本知識、Nリンクについて学習した。視覚障害者職員に対しても「ないーぶネット」操作研修会を実施した。
 - (3) 目録入力プロジェクトについては「ないーぶネット研修会」および「目録研修会」で講師として指導にあたった。
 - (4) サポートプロジェクトについては、Nリンクの操作およびシステム未導入施設等にサポートを行うなどの指導ならびにネットワークの問題検討を行った。
2. 点訳委員会（委員 水谷吉文）
 - (1) テキスト改訂プロジェクト
点訳問題集1の発売開始、点訳問題集2検討作業を経て発売開始。
点訳問題集3について文案検討を行っている。
 - (2) 第19回点字指導員資格認定講習会を開催した。
 - (3) 「点訳のてびき」の改訂に伴い、1996年発行の「BE文書の製作基準」の見直しを行っている。『「ないーぶネット」登録図書に誤りを発見したときの連絡修正に関する申し合わせ』を新しい製作基準に入れることについて提案し、承認された。

3. 録音委員会（委員長 姉崎久志）

- (1) 処理事例集プロジェクトで「処理事例集」の作成を開始している。平成15年度中に完成させたい。音訳指導技術講習会プロジェクトでは音訳指導員の資格認定者に対するフォローアップ研修として準備している。DAISYプロジェクトでは新しいソフト・ハード等についての早期検証に努力していく。
- (2) 2005年をデジタル化移行年度としたい旨、富山大会で提言されていたが、インターネット配信サービスの著作権問題のクリアを願っている。デジタル技術だけでなく音訳技術を高める方向で検討する。

4. 啓発委員会（日本ライトハウス盲人情報文化センター館長 岩井和彦）

学校教育カリキュラムの改訂に伴い、「総合的な学習」の導入によって福祉体験学習の申し込みが多く、社会福祉施設としても社会貢献活動が求められている。「視覚障害者とは」「点字って何」「視覚障害者への情報提供はなぜ必要か」などをビデオで紹介するための教材作りの準備を行っている。

5. 「ないーぶネット」事務局（事務局長 村井晶人）

システム管理にかかる判断、意思決定の簡素化を図るため、システム管理委員会を廃止し、理事会との連携を強めることとした。

管理内容としてシステム管理については日本点字図書館、会員管理は日本ライトハウスが担当。データ管理については全視情協とした。

旧システムについては平成15年3月31日をもって廃止する。

【要望事項】（上野点字図書館 小菅一代）

点字指導員資格認定講習会と有資格者を対象とする追認講習会（フォローアップ）を隔年に実施することとされているが、認定講習会を毎年実施されるよう中部ブロックとして要望する。

日盲社協点字出版部会との話し合い

去る11月15日(金)、名古屋盲人情報文化センターで、従来から懸案になっていた点字出版と「ないーぶネット」データの重複製作回避についての話し合いの場がもたれました。全視情協からは岩井副理事長、村井ないーぶネット事務局長、小野サービス委員長、梅田サービス委員が、点字出版部会からは部会長・事務局他役員2名が出席しました。

結論にはいたらず、平成7年(1995年)の申し合わせ()に準拠することとなりましたが、参加者の意見は前向きなものでした。

また、11月21日(木)、佐賀ライトハウス六星館で開催された点字出版部会の職員研修会では、鹿児島県視聴覚障害者情報センターの吉弘裕子氏が、「ないーぶネット」上で

点字出版目録がどのように使われているかについて説明を行いました。

今後とも貴重な点訳資料の重複を避ける努力を継続していく必要があります。

平成7年(1995年)の申し合わせ

「出版登録」と「てんやく広場」の調整について (1995.07.07)

1. 既にどちらかで完成登録された原本について

両者ともに、完成登録された原本については後で点訳着手する側が避ける。

なお、両者ともに、既に完成登録されている原本については現状のままとし、原則として重複していても調整はしない。

2. 予定登録(着手情報)された原本について

予定登録(着手情報)された原本については、互いに十分に参考にする。ただし、点訳完成予定時期・点訳形態などによっては、重複もあり得るが、できるだけ避けるように調整する。

音訳指導技術講習会、好評を得て終了

11月20日(水)~22日(金)、大阪の日本ライトハウス盲人情報文化センターで、平成14年度音訳指導技術講習会が開催されました。定員を上回る申し込みがあり、最終的に66人の参加となりました。今回は、これまでに音訳指導員の資格認定を受けた方々を対象にしたフォローアップ講習会でした。初の試みでしたが、参加者の生の声や講習会終了時に回収したアンケートによると、かなり満足していただけたようです。

これは、情報提供活動の対象者である視覚障害者(当事者)を積極的に講師に迎え、活動の原点を探ることができたこと、グループディスカッションを通しての意見交換ができたこと、などによるとおもわれます。

次回(第22回音訳指導技術講習会)は、平成15年11月に東京方面で開催予定です。

点字指導員資格認定の合格者は46名

8月28日(水)~30日(金)、平成14年度点字指導員講習会(第19回点字指導員資格認定講習会)をメルパルク東京で開催しました。140名の申し込み者に課題文審査を行い、65名の受講者を決定しました。最終日に校正問題の試験を行い、点訳問題は持ち帰り、後日郵送で提出してもらいました。

2種類の試験の解答を採点・検討し、合格者38名、不合格者27名を決定しました。

また、前回(平成12年度)実施した第18回点字指導員資格認定講習会で不合格だった28名については21名が受験し、合格者8名、不合格者13名を決定しました。この再試験不合格者が点字指導員資格に再度挑戦する場合は、次回以降の資格認定講習会に新たに申し込んでもらうことになります。

パソコンを利用している点訳が主流となっているため、点字用紙に書かれたものの読みや、点字器・点字タイプライターを使用して点字を書くことを苦手とする受講者が今まで以上に目立ちました。特に点字を読むことに習熟していない受講者が多いように思われます。パソコン上での点字の読み書きだけでなく、実際の点字の読み書きに習熟した点字指導員の養成が重要です。

「ないーぶネット」個人会員へ協力金のお願い

現在、「ないーぶネット」事務局では、昨年に引き続き、ないーぶネット個人会員の方々に、協力金として1口5,000円の寄付をお願いしています。

個人会員（視覚障害者）は2,400名となりました。施設会員を含めた利用状況は下表のとおりで、施設・個人を問わず多くの方々にご利用いただいています。

しかしながら、ネットワークシステムの維持ならびに安定した運営のためには多額の費用が必要です。今後とも、国に対しては公的支援を引き続き要望してまいります。また、全視情協加盟の「ないーぶネット」利用施設・団体には15年度から新たな負担金をお願いすることとなりました。

本来、個人会員は会費無料ではありますが、「てんやく広場」の時代から会員一人一人が守り育ててきたネットワークとして、ご協力いただければありがたく存じます。

なお、昨年度は約200万円の協力金が集まりましたことをご報告し、この場を借りてお礼申し上げます。

また、会員外の皆様からのご寄付もお待ちしております。

協力金・ご寄付等の振込先：下記へお願い申し上げます。

- ・郵便振替 00900-1-140253
全視情協 視覚障害者情報ネットワーク事務局
- ・銀行振込 UFJ銀行 放出(はなてん)支店
普通預金 3833672
全視情協 視覚障害者情報ネットワーク事務局

ないーぶネット利用統計（14年11月5日現在）

会員数	施設 301 個人 2361（テレフォニー会員含む）	
ログイン数	インターネット 施設 207,482 個人 97,168	テレフォニー 施設 695 個人 4,099
総目録数	ないーぶ 282,120 A B 0 1 256,991	T R C 322,637 点字出版 6,593
完成目録件数	タイトル数 272,631（うち、点字データのあるもの 冊巻数 1,337,523（うち、点字データのあるもの	45,224） 201,824）